令和3年度　徳島県立小松島高等学校　学校評価　総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
基礎学力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現 生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の推進	○基礎学力の定着と向上を図る。 ○面談の充実により，一人ひとりの課題に応じた指導を徹底する。 ○生徒の探究心を育成し，主体的に学ぶ態度を養う。 ○探究的活動を通して社会や自然科学への知識・関心を深め，思考力・判断力・表現力を育成する。 ○高大接続改革など，時代の変化に応じたきめ細かな進路指導を推進する。 ○キャリア教育と探究的活動を推進し，個に応じた進路目標設定を支援する。	キャリア支援課 進路指導担当	・週1回の教科会を設定し，生徒の実態に応じた学力向上策を検討し，効果的な取組を行う。また，松高セミナー，補習，校内学力テスト，週末課題，模擬試験等も活用する。 ・個々に応じた教科指導を行うとともに，面談を充実させ，将来に向けた目標の早期設定を支援し，きめ細かな進路指導を推進する。 ・ICTを活用した授業等を積極的に実践したりアクティブラーニングを推進するなど，「基礎的な知識・技能」の習得，「思考力・判断力・表現力」，「主体的に学習に取り組む態度」の育成を図る。 ・「未来のためのまなびプロジェクト」を中心に，新入試制度，新学習指導要領に対応した授業改善の方策及び「総合的な探究の時間」を軸とする横断的・総合的な学習のあり方を検討・実践する。	・大学，短大，専門学校進学や公務員試験・企業就職等の多様な進路希望に対応する補習や個別指導を行う。1・2年生希望者対象の松高セミナー(火水木8:00～8:25)で学習習慣や基礎学力の向上を図る。2年生（3学期のみ)・3年生の希望者対象の進路に応じた早朝補習(7:50～8:25)，を実施する。 ・平常の学習活動でふりかえりを徹底し，生徒による授業の自己評価を行う。 ・年間4回の面談月間を基本に生徒やクラスの状況に応じた面談を実施し，生活・学習習慣の維持向上を図るとともに，進路意識を高め目標を明確化する。 ・授業研究週間を年間2回設け，その中で，アクティブラーニングを主体とした授業，ICTを活用した授業，「生徒授業」等に取り組み，生徒による授業評価を2回実施する。　・1・2年の「総合的な探究の時間」で，自らの興味・関心をもとにした探究活動を展開し，主体的に学ぶ態度を養う。 ・3年の「総合的な探究の時間」を進路指導との系統性を持たせ，計画的に実施し，進路指導を充実させる。	松高セミナーや通常の補習・授業を中心に取り組むことで基礎学力の定着を図った。また検定試験・模試を通して生徒自身が自分の現状を把握し進路意識を高めた。予測しづらいコロナ禍の影響もあり，大学や企業との連携に課題を残した。 (B)	低学年次からの学習習慣の確立や基礎学力の定着。進路目標の設定と柔軟性を持たせた進路計画を立案することにより，進路実現に対する意識を高める。
		1学年	・家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を25%以上，1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月と9月のスタディーサポートで評価) ・松高セミナー出席率を90%以上とする。特に月曜日と金曜日のセミナーの時間を利用し，自主学習する習慣を育てる。	・「キャリアパスポート」を活用し，自己反省・自己管理をさせる。 ・個人面談や生活実態調査・進路希望調査等から生徒の実態を分析し，目的意識を持って学習に取り組ませるよう，細やかな指導を行う。 ・予習，復習を励行し，週末の家庭学習時間を確保させる。また，月曜日・金曜日のセミナーの時間を利用して，自主学習する力を育成する。	2時間以上平日15.1%, 休日37.4% 1時間未満平日54.7%, 休日36.3%（9月） セミナーの出席率 90.1% 希望制　(C)	自ら学習目的を立て自主学習をする手立てが必要。
		2学年	・家庭学習時間の確保。家庭学習2時間以上の生徒を25%以上，1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月と9月のスタディーサポートで評価) ・最終実施の校外模試の受験者数が50人以上。	・「キャリアパスポート」を活用し，自己反省・自己管理をさせ，家庭学習時間を伸ばしていく。また，面談や進路希望調査，「キャリアパスポート」等から生徒の実態を分析し，学習方法など個々に応じた具体的な指導を行う。 ・模試や検定に挑戦することを呼びかけ，放課後の対策講座を充実し，主体的に学ぶ力を育成する。	2時間以上平日11.0%, 休日29.9% 1時間未満平日64.7%, 休日46.4%(9月) 模試受検者55名 (C)	個々に合った学習方法についての見直しが必要。
		3学年	・家庭学習時間の確保。家庭学習時間2時間以上の生徒25%以上，1時間未満の生徒を30%以下とする。(4月のスタディーサポートや「キャリアパスポート」で評価) ・「キャリアパスポート」を記録させ，自己管理・自己反省の機会とする。	・「キャリアパスポート」を毎日記録させ，自己反省・自己管理をさせる中で，家庭学習時間を伸ばしていく。また，面談や進路希望調査，「キャリアパスポート」等から生徒の実態を分析し，個々の進路実現のため，具体的な目的意識を持って学習に取り組ませるよう，細やかな指導を行う。学習方法などについても具体的な指導を行う。	2時間以上平日35.3%, 休日39.3% 1時間未満平日52.6%, 休日36.4%(4月) 「キャリアパスポート」を各自が活用できた。　(B)	キャリアパスポートを面談に活用する。
		ICT支援課 GIGAｽｸｰﾙ担当	・Society5.0時代を生きるすべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びを実現するためにICTの積極的活用を行う。 ・1人1台の端末を保護者の理解の元で活用し，学校はもとより家庭でも利用できる環境を整える。 ・「Classi」を活用したアンケートや情報発信を各学年ごとに学期3回以上行う。	・「MetamojiClassroom」「Classi」「マイクロソフト365」等などのクラウドサービスを利用できる環境を整え，授業において積極的に利用しながら生徒が活用できるよう指導する。また，「徳島県学習者用タブレット端末利用規程」についても生徒及び保護者に十分理解してもらうよう努める。 ・教員に対しても総合教育センターと連携を取りクラウドサービスの指導ができるよう研修を行う。また，「徳島県学習者用タブレット端末」についても生徒同様に理解してもらうように周知する。	・クラウドサービスの利用をある程度できるようになった。 ・メタモジ等の研修を数回行った。 (B)	ID，パスワード，端末本体の管理をしっかり行うことが必要。
		国語	・授業評価アンケートの「知識・理解」「学びに向かう力」「主体的に学ぶ」項目について，できている割合を80%以上とする。 ・スタディーサポートの学習到達度B層人数の維持または増加させる。 ・年3回の漢字検定で合格率を40%以上にする。	・授業，単元における目標の明示。 ・校内学力テストや模試の結果の分析。特に，分野別の観点を用いて，セミナーや補習，日々の課題において，時期や分量を考慮しながらある程度まとめて指導する。	・アンケート95%,95%,93% ・B層以上の生徒 1年74人→57人 2年43人→51人 3年36人→38人(1月) (B)	3年間の成績推移の確認と時期に応じた指導の研究が必要。電子黒板を効果的に利用できるように研究する。 電子黒板を効果的に利る。
		地歴・公民	・国際社会に主体的に生き，社会を形成する公民としての必要な資質を身につける。 ・授業評価アンケートの「知識・理解」「学びに向かう力」項目について，できている割合を80%以上とする。	・主体的な学びを促す課題を提示し，グループディスカッション等の言語活動を通して相互の理解を深める。 ・プリントなどを用いて理解度を確かめる（使用プリント・小テスト等は誤答を直させ，正しい知識の定着を図り，評価の一部とする)。 ・週1回は新聞記事を題材にした授業を展開する。(公民) ・現代社会の出来事について，自らの意見を持ち，またそれを発表する機会を毎週1回は設ける。(公民)	・アンケート91%,93% ・電子黒板利用により，統計やビジュアル面から主体的な学びを導いた。 (A)	

令和3年度　徳島県立小松島高等学校　学校評価　総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
基礎学力の向上と主体的・対話的で深い学びの実現 生徒の可能性を最大限に伸ばす進路指導の推進	○基礎学力の定着と向上を図る。 ○面談の充実により，一人ひとりの課題に応じた指導を徹底する。 ○生徒の探究心を育成し，主体的に学ぶ態度を養う。 ○探究的活動を通して社会や自然科学への知識・関心を深め，思考力・判断力・表現力を育成する。 ○高大接続改革など，時代の変化に応じたきめ細かな進路指導を推進する。 ○キャリア教育と探究的活動を推進し，個に応じた進路目標設定を支援する。	数学	・授業評価アンケートの「授業を通してできるようになったこと」について，「自分の考えを伝える」「情報を適切に活用できる」の割合を90%以上とする。 ・スタディーサポートの学習到達度B層以上を増やす。 ・「数学検定」の合格者数を25人以上にする。(R2年度28人)	・毎時間の授業でめあての提示とふりかえりをする ・定期的に教科会を実施し，情報共有しながら学力向上と授業改善に取り組む。 ・復習予習の仕方を具体的に指示し，生徒が自主的に学びに向かうよう指導する。 ・定期考査や校外模試を十分に活用する。 ・数学講座を定期的に行う。年間計画を立て，計画的に講座に参加できるようにする。	・アンケート45% ・B層以上の生徒 1年58人→52人 2年48人→74人 3年51人→70人(1月) ・数検合格者11人 (C)	教科会で情報共有しながら，学力向上と授業改善に取り組んでいく。
		理科	・授業評価アンケートの「知識・理解」「学びに向かう力」「表現力」の項目について，できている割合をそれぞれ80%,80%,80%とする。 ・薬品等を使う生徒実験においてT-T達成率を80%以上とし安全な実験実習を心がけ事故ゼロを目指す。	・教科内公開授業を行い，指導力の向上を図る。小テストを実施することで学力の定着を図る。 ・実験実習の回数を各科目で学期に1回以上とする。 ・生徒に安全面に対する認識を深めさせ，生徒実験時のT-T体制を確立し，学習内容の理解度を高める。 ・ICTの積極的活用，グループワークを充実させ生徒の発言機会をつくる。 ・授業の初めに目標を提示する。	・アンケート89%，92%，79% ・T-T達成率(薬品等を使う実験に於て)100%事故ゼロ達成 (B)	ICTを使う教材をしっかり吟味した上で活用する。
		保健・体育	・積極的にスポーツに取り組む姿勢を育成することを目標とする。 ・授業評価アンケートの「学びに向かう力」項目について，できている割合を85%以上とする。	・技術向上のポイントや，ゲームの進め方等を細かく指導するとともに，審判法や競技の特性など，各種目への興味を高める指導を行う。	・アンケート 96% (A)	動画撮影など，タブレットを活用する。
		芸術	・授業評価アンケートの「知識・理解」「学びに向かう力」項目について，できている割合を90%以上とする。	・授業に興味・関心を持たせる教材の精選と，理解度を高めるためにコンテンツ等を用いたり，模範を示して指導方法に工夫を凝らす。	・アンケート 94%,95% (A)	更なる技術の向上を目指す
		英語	・授業評価アンケートの「知識・理解」「学びに向かう力」項目について，できている割合を80%以上とする。 ・スタディーサポートの学習到達度B層以上の生徒を30%以上にする。 ・実用英語技能検定の合格率を50%以上にする。	・基礎・基本の定着が必要な生徒と，成績上位層の生徒それぞれに対し，授業・松高セミナー・各種テストを通じてその内容や取組を工夫する。学習方法を具体的に指示しながら，予習・復習を奨励し，家庭学習の習慣を身につけさせる。生徒が能動的に学習に取り組めるようにするため，授業や課題を改善する。 ・授業中の学習や活動の結果，実用英語技能検定に合格できる力を養成できるよう授業を改善するとともに，英検などの外部試験対策講座を設定する。	・アンケート 93%,92% ・B層以上の生徒 1年28人→42人 2年21人→34人 3年28人→52人(1月) ・英検合格率41.6% (B)	授業研究会の実施。 教員が外部試験研究をし，効果的な検定講座を実施する。
		家庭	・授業評価アンケートの「学びに向かう力」の項目について，できている割合を90%以上とする。 ・家庭科技術検定100%，保育技術検定90%以上の合格を目指す。 ・消費者教育で生徒理解度を90%以上にする。	・実生活に役立つ基礎的な内容を精選し，体験的に学ぶ授業を積極的に取り入れる。 ・検定の意義を理解させ，合格を目指して放課後に練習をさせる。 ・「社会への扉」の教材を利用して生徒の理解を高める。	・アンケート 92% ・検定は実施し合格率を達成した。 ・消費者教育理解度80% (B)	体験的な学びを取り入れる。
		情報	・授業評価アンケートの「知識・理解」項目について，できている割合を80%以上とする。 ・ビジネス文書実務検定は100人以上の受検者数をめざす。 ・10分タイピングで300字以上タイピング率を70%以上にする。	・1年生には毎週10分タイピングを継続して実施し，ビジネス文書検定を受検することを意識した取組をする。前年度は広報不足だったため情報科で教科会を適宜開き，検討しあう。 ・2，3年生の情報選択者にはさらにビジネス文書検定のさらに高い上の級に挑戦させる。	・アンケート92% ・タイピング300文字達成は89/178で50% (C)	ビジネス文書実務検定61人受検。広報が必要。10分タイピングを毎週の継続する。
		企画推進課 教務担当	・成績優良者を増やす。(在籍生徒の6%以上) ・欠点保有者数を減らす。(在籍生徒の5%未満［1学期末]，4%未満［2学期末]，1%未満［学年末])	・教育課程に多様な選択科目を設けるとともに，希望制による習熟度の高い応用クラスを各学年に1クラス設置する。 ・全校集会や学年集会において生徒に高い目標を持たせるとともに，各教科や担任による個別指導を行い，自分の将来をイメージさせ，学習習慣を確立させる。 ・個人面談等を通して生徒理解に努め適切なアドバイスを行う。 ・授業研究週間等を有効活用し授業力の向上を図り，生徒の学力向上に繋げる。	成績優良者3.7% （前年比2.7%減） 欠点保有者7.2% (前年比7.2%減) (C)	習熟度別の指導を継続し，配慮の必要な生徒に基礎学力の定着を図る。
		キャリア支援課 図書担当	・読書習慣を身に付けさせて，読解力と思考力を養い，広い視野を持たせるために，図書館の図書貸出冊数を1人平均3冊以上とする。 ・年間を通してたくさん本を読んだ生徒を各学年3名表彰する。	・図書館だよりや昼休みの放送を通して広報を行い，入館者を増やす。 ・国語の教科書に掲載されている作家コーナーや毎月テーマを決めた図書の展示コーナーを設置したり，生徒による図書の紹介をすることで，読書に対する関心を高める。 ・HRの時間に読書の時間を年間を通して1時間設定する。 ・授業で図書館を利用する回数を増やしていく。	・入館者数3021人 ・授業利用46回 (B)	図書館だよりで広報する。

令和3年度　徳島県立小松島高等学校　学校評価　総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
心に響く生徒教育といじめをゆるさない人権教育の推進	○松高生としての自覚と誇りを醸成する。 ○基本的生活習慣の確立，時間厳守，美しい制服の着こなし，挨拶の励行等の推進 ○互いを認め，思いやり，ともに高め合う心を育成する。 ○ルールを守る規範意識の育成を図る。	1学年 2学年 3学年	・担任会等において生徒の出欠状況など気にかかる生徒を把握し，管理職に報告相談し，共通理解に努める。 ・学年間の共通理解を図るために,随時,学年主任で協議する。	・気にかかる生徒については，随時個別面談を行うとともに，保護者との連携を密にする。特に不登校気味の生徒に対しては，家庭訪問や三者面談等を通して，意識が学校に向くような支援を行う。 ・学年主任の連携を密にし，担任会での議題等について必要に応じて協議をし，3学年一体となった指導を行う。	学年主任間で協議し，円滑に実施できた。 (A)	学年間で連携を取り，コロナ禍でできることを柔軟に対応する。
		こころとからだの支援課　人権教育	・人権学習ホームルーム活動を充実させ，人権意識の高揚を図り，同和問題をはじめさまざまな人権問題解決のための意欲と実践力をもった生徒を育てる。 ・講演会等の満足度を85%以上とする。 ・人権学習ホームルーム活動後の自己評価において，「真剣に取り組めた」生徒の割合を85%以上とする。	・校内外の研修を充実させ，それを生かして生徒への授業や人権学習ホームルーム活動を充実し，生徒が主体的に取り組み，活動できるように内容を精査する。特に校外との交流を通して，校内人権教育のリーダーとして活動できる生徒を育てる。 ・定期的に職員研修や人権問題講演会を実施し，『あわ人権学習ハンドブック』や『じんけん』を人権学習ホームルーム活動において有効に活用する。	・人権ホームルーム活動の自己評価は92% ・講演の満足度は91% (B)	協議する時期を早くする。
		こころとからだの支援課　生徒教育	・問題行動が起こらないような環境づくりに努め，基本的な生活習慣を確立させる。(一年間皆勤の者が全校生徒数の40%以上となるようにする) ・遅刻を減らす指導を徹底する。(遅刻延べ数を700回未満に減少させる)	・毎週水曜日を「自主・自律の日」とし，朝のSHRで「キャリアパスポート」などを活用し，日頃の生活の見直し，改善をはかる。また，日常的に声かけを行い，信頼関係の中で指導を行う。 ・遅刻者については基本的生活習慣を確立させるため，内省する機会を与える。	・皆勤率23.3% ・遅刻延べ数749回 (C)	・コロナ禍における生活習慣の確立について考えていく。 ・一部の生徒に欠席遅刻が多い、生活の記録や家庭の協力を得て改善させる。 ・情報を共有し、支援がより充実するようにしたい。
			・特別支援を必要とする生徒に対する組織的な支援体制の確立を図る。 ・特別支援の職員研修を年1回以上行う。	・全教職員の共通理解の下，支援の必要な生徒に対して支援委員会やサポート会議を開き，具体的な支援を検討し，実践する。	・4月に職員研修を行い，共通理解を深めた。 (B)	
			・教育相談週間を年4回以上実施し，生徒理解に努め，生徒の自己実現を支援する。	・教育相談週間等を利用して生徒と教職員の人間的なふれあいの中で生徒の自立を支援する。	・ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ実施81件 (A)	
			・暴力やいじめを許さない環境作りをするため，学校生活アンケートを年2回以上行う。	・生徒の生活実態を把握し，全校集会・学年集会や部活動キャプテン会議等の機会を捉え注意を喚起する。また，いじめ防止につながる啓発活動をする。	・アンケートを3回実施し生徒理解に活用した。 (A)	
		こころとからだの支援課　保健厚生	・ホームページに保健情報を各学期に1回以上掲載する。 ・保健に関するHR活動を年1回実施する。 ・教職員を対象として心肺蘇生法と緊急時の救急法の研修を実施する。 ・教職員および生徒がコロナウイルスに感染しないように取り組む。また、クラスターを発生させないように取り組む。	・生徒の実態や季節に応じた保健情報を発信したり，文化祭での保健展を実施することで，各家庭や地域の健康に関する意識の向上につなげる。 ・検査や検診の結果を家庭に通知した後，個別指導を粘り強く行い，心身の健康の保持や増進を図る。 ・教職員がAED・エピペンを使った対応の仕方を学ぶとともに，緊急時に対応するスキルや能力を身につける。 ・マスクの着用、手洗いの励行、換気を周知徹底させる。	・保健だより等でコロナに関する情報を必要に応じて発信した。 ・文化祭で保健展を実施した。 ・保健に関するHR活動を生徒授業で実施した。 (A)	コロナの影響により、救急法講習が動画の視聴のみとなった。来年度は実習も取り入れ、手技の確認をできるようにする。
		活動創生課　環境防災	・ゴミの減量とリサイクル活動を徹底させる。 ・丁寧に清掃を行い，学校生活環境を整えさせる。 ・環境委員会活動を年間3回以上実施する。	・環境ISO取得を受け，缶･ペットボトルの分別を全生徒・全職員で行い，自己処理から徹底させる。 ・毎週木曜日を「環境の日」とし、環境委員を中心に缶・ペットボトルの分別チェックを行う。 ・クラスの環境目標を決めて教室掲示する。丁寧に清掃を行い，校内美化に努める。	・缶・ペットボトルの分別回収は80%程度達成できた。 ・環境委員活動を年3回以上実施した。 (A)	部活動での缶・ペットの分別の徹底し,ゴミの減量に取り組む。

評価（達成度）　A：十分達成（100%）　B：概ね達成（80%程度）　C：変化の兆し（50%程度）　D：まだ不十分（30%前後）　E：目標，方策の見直し（20%以下）

令和3年度　徳島県立小松島高等学校　学校評価　総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
部活動における技術・競技力・人間力の向上と生徒会活動の活性化	○一人ひとりが目標を持ち，部活動を通じて互いを高め合うとともに，豊かな心や創造性の涵養，生涯を通じた健康・安全な生活と豊かなスポーツライフの実現につながる基礎を培う。 ○自分たちの生徒会に誇りが持てる，生徒による，生徒のための生徒会活動の実現を目指す。	活動創生課 特別活動	・部活動に加入している生徒一人ひとりが目標を設定し，充実した活動ができている生徒60%以上を目指す。	・各部活動が年度当初に活動計画と目標を話し合い，生徒一人ひとりが個人目標を設定し活動を行う。 ・目標に向かって充実した活動ができているか，自己評価アンケートを実施する。	自己評価アンケート目標達成度74% (A)	実施時期を早め,3年生も実施。
			・キャプテン・部長会議、部活動集会を年間に3回以上行う。	・各部の部長，キャプテンに活動の注意事項を伝えると同時に，生徒間同士での話し合いの時間をもち，部活動の活性化に努める。	6回実施 (A)	体育部・文化部との交流を実施。
			・生徒会役員一人ひとりが目標を設定し，充実した生徒会活動ができている生徒60%以上を目指す。	・生徒会で活動計画と役割分担を決め，一人ひとりが個人目標を設定し活動を行う。 ・目標に向かって充実した生徒会活動ができているか，自己評価アンケートを実施する。	自己評価アンケート目標達成度80% (A)	実施時期を早め,3年生も実施。四国総体本番に向け活動内容を検討。
学校・家庭・地域連携協働体制の構築と地域貢献ボランティア活動の推進	○学校・家庭・地域が一体となって，地域の未来を担う生徒を育成する。 ○地域社会との交流による地域貢献型学習を推進する。 ○あらゆる機会的な情報発信を行う。 ○地域と連携した防災教育の推進を図る。	活動創生課 特別活動	・小松島松原の育樹ボランティア活動を年5回以上実施し，全校生徒の55%以上の参加を目指す。 ・ボランティア活動に対する意識を高め，校外のボランティアにも積極的に参加し，ボランティア認証を受ける生徒80名以上を目指す。 ・「四国総体　2022」の高校生活動学校推進委員会活動を年間に5回以上実施する。	・ボランティア推進委員が中心となって全校生徒に呼びかけ，ボランティアを募る。ボランティア活動に対する意識を高め清掃活動等にも積極的に取り組む。 ・ボランティア活動の意義や認証登録制度について説明する機会を持つ。実施日等について全校生徒に案内するとともに，ボランティア推進委員を中心に参加者を増やしていく。 ・徳島県実施種目の広報活動や環境美化活動など開催機運が高まるような活動を考え，実施する。	・ボランティア参加67.9% ・ボランティア認証159人 ・7回実施　(A)	・感染症の影響でゴミゼロ運動に内容等変更して実施。 ・四国総体本番に向け活動内容を検討。
		主権者教育	・主権者教育に関するホームルーム活動，プロジェクトK，生徒会活動，学校行事を年間5回以上実施する。 ・校外でのボランティア活動や，主権者教育に関する行事等に参加する生徒の割合を60%にする。	・使用可能な資料，専門書等の紹介を行う。 ・生徒会役員選挙をはじめとした「選挙」に関わる取り組みと公民科の学習内容との関わりを強化し，さまざまな立場の考え方に触れる時間をもつ。 ・公民科等で学んだ知識をプロジェクトKなどとの関連を通して活かしていく。	・数値目標の概ね80%は達成した。 ・行事等に主体的に取り組む生徒が多い。　(B)	全般的に社会や生徒に応じて形式を変えていくことが必要。
		活動創生課 環境防災	・防災避難訓練を年2回実施し，様々な状況において対応できるよう内容を工夫する。避難の際に感染症予防対策を考慮する。 ・学校内外の清掃活動に積極的に参加させる。	・1回目は火災を想定し，避難経路の確認をする。2回目は地震津波対応の避難訓練を実施する。避難階をできるだけ分散し、避難後にはできる限り人との間隔をあける。また，教職員の対応も含めて訓練する。 ・ゴミゼロ運動や除草作業等を積極的に行う。	・避難訓練は2回実施。 ・清掃活動は計画通り実施。 (B)	感染症予防対策を踏まえて避難訓練の実施。
		企画推進課 渉外	・保護者との連絡を密にし，より多くの保護者に本校の教育方針や教育活動を理解して頂く。12月の保護者アンケートで満足度80%を確保する。(昨年度80.25%) ・役員会を年2回以上行い，情報を積極的に提供する。	・保護者の協力を求め，学校と家庭との連携を密にし情報交換を実施する。 ・ホームページの更新回数を増やし，地域への学校行事案内やボランティア活動を行う。	PTA行事中止。 役員会1回。 (C)	卒業記念品選定の件は引き継ぎが必要。
		1学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。	・保護者対象進路説明会では，生徒の状況報告や，進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また，必要に応じて個人懇談を実施する。	進路説明会参加人数120名 (A)	開催時間と内容の精選。
		2学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。	・保護者対象進路説明会では，生徒の状況報告や，進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また，必要に応じて個人懇談を実施する。	進路説明会参加人数76名 (B)	実施時期や講演内容について検討。
		3学年	・保護者対象進路説明会の参加目標数を80名以上とする。	・保護者対象進路説明会では，生徒の状況報告や，進路実現に向けての進学・就職に関する情報提供を行う。また，必要に応じて個人懇談を実施する。	中止。資料配付,Classiでの資料提供などを定期的に行い，進路検討を促した。 (C)	実施方法について，柔軟に対応することが必要。
		ICT支援課	・ホームページ更新回数を140回以上とする。	・多くの教員が更新に関われるように研修会を実施し，更新する内容を増やす。	・更新146 回 (B)	更新回数を増やす。

令和3年度　徳島県立小松島高等学校　学校評価　総括評価表

重点課題	重点目標	担当	具体的目標・数値目標	具体的方策	成果と評価	改善点
学校・家庭・地域連携協働体制の構築と地域貢献ボランティア活動	○学校・家庭・地域が一体となって，地域の未来を担う生徒を育成する。 ○地域社会との交流による地域貢献型学習を推進する。 ○あらゆる機会を通じて，積極的な情報発信を行う。 ○地域と連携した防災教育の推進を図る。	管理職	・学校評議員・学校関係者評価委員会を2回実施し，コミュニティスクール運営協議会につなげる。	・地域の有識者・学校の教育活動支援に関わっていただいている評議員から運営に関する意見を頂き，そして近隣の中学校の教員を委員とする学校関係者評価を行うことで，より地域に開かれた，また客観性のある学校評価をめざすとともに，地域の学校関係者との交流，中学校に対する学校情報の公開を行い，コミュニティスクールに向けての基盤を整備する。	2回実施 (A)	来年度ｺﾐｭﾆﾃｨｰｽｸｰﾙを運営する。
		企画推進課 教務	・中学3年生を対象とした体験入学を実施し，参加生徒数の目標を320名以上とする。 ・参加生徒の「少し理解できた」以上という評価が95%以上，「よく理解できた」という評価が75%以上となるよう内容を工夫する。 ・11月の公開授業（オープンスクール）も広報に努める。	・中学校への説明・広報活動を積極的に推進する。小松島市及び近郊の中学校と在校生の出身中学校へは年2回以上訪問し，学校案内・資料の配付も併せて行う。 ・中学生体験入学，オープンスクールともに近隣中学生が参加しやすい日程を調整する。	体験入学中止 オープンスクール来校者238人(前年比54人減) (C)	日程を調整し，生徒主体の活動を継続する。
			・保護者への情報提供を積極的に行い，連携を密にして生徒の指導にあたる。 ・「松高だより」を年6回以上発行する。	・「松高だより」の内容を精選し，写真，図・表を取り入れるなど見やすく読みやすいものとし，ホームページにも公開をする。	6回発行 (A)	写真等を効果的に取り入れる。
	○強い責任感を持って，充実した教育を展開するために，常に教職員の資質向上と，教職員組織の強化を図る。	管理職	・コンプライアンス研修を年20回以上行うとともに，管理職と教職員との個別面談を年2回以上行い，不祥事・ハラスメントの防止，風通しの 良い職場環境づくりをすすめる。	・「コンプライアンスハンドブック」，新聞記事等を活用して違反事例や処罰を学ぶとともに，目標管理ｼｰﾄを基に個別面談を行う。また面談時に職場づくりの意見を収集する。	研修26回 面談2回 (B)	SNS使用の意識を高めた。
			・生徒が安全で安心して学校生活が送れるよう，年間5回以上の学校安全研修を行う。	・避難訓練（防災・防火），心肺蘇生法，アナフィラキシーショック対処法等，計画的・組織的に行う。	5回 (B)	自主防災組織との連携を密にする。
			・教職員の交通安全意識を高め，交通違反や事故を「ゼロ」にする。	・県安全運転管理者協会が主催する安全運転管理者講習会に正・副の安全運転管理者が出席し，モータリゼーション社会の現状を学び，交通マナー・ルール遵守の精神を培うとともに。県教委主催の講習会に参加する。	違反0事故0件 (A)	「ゼロ」を継続する。
			・教職員の働き方改革を推進するため，会議は60分以内，部活動は20時制限を設ける。	・予め会議資料を配付し，またはタブレットを活用し教職員が議題を把握することで会議の効率化を図り，また部活動では，予め練習メニューを作成することで効率的な練習を行う。	概ね達成 (B)	新たな会議システムの構築。

評価（達成度）　A：十分達成（100%）　B：概ね達成（80%程度）　C：変化の兆し（50%程度）　D：まだ不十分（30%前後）　E：目標，方策の見直し（20%以下）